

防災教育について

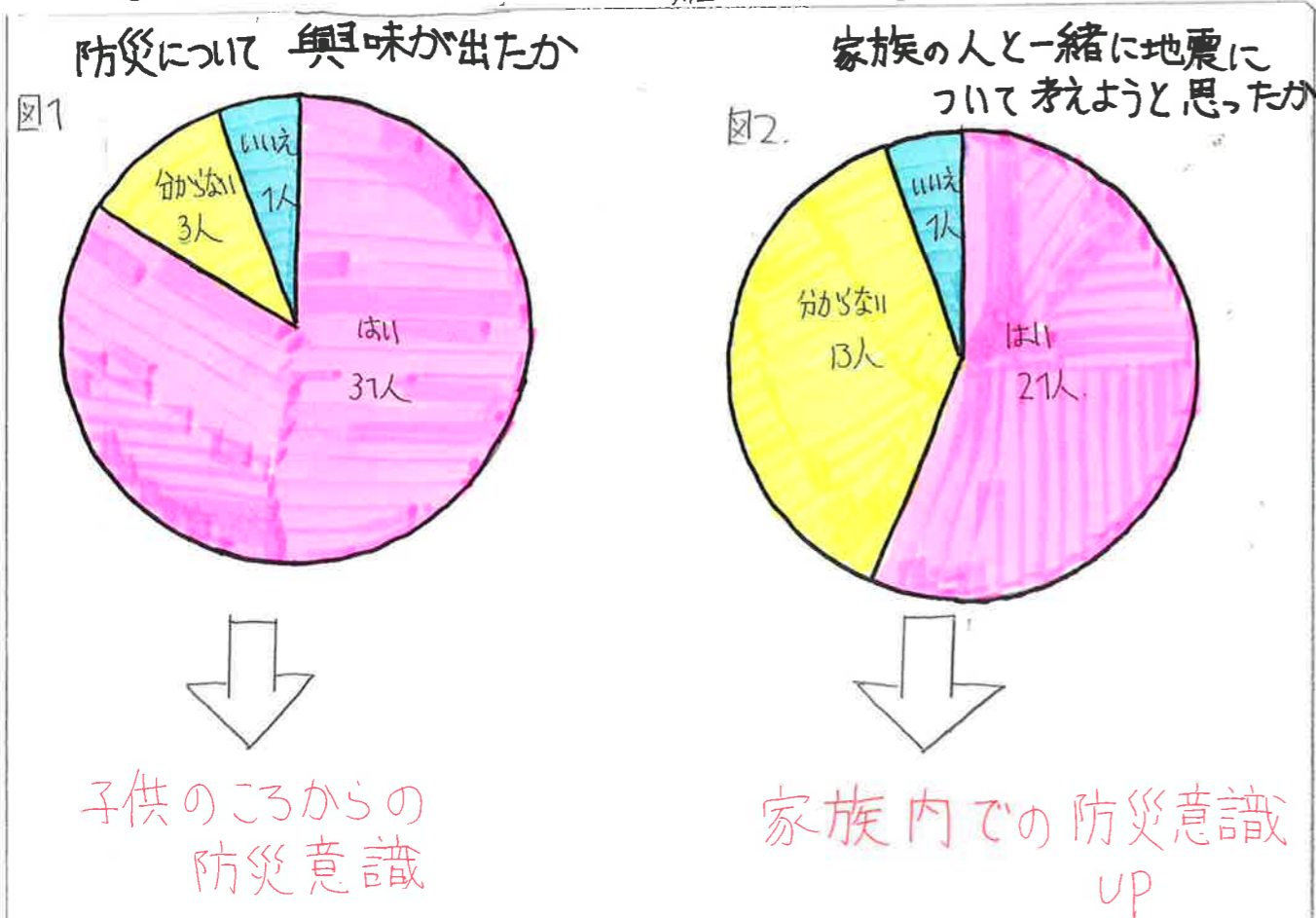
① 楽しくわかりやすく

防災教育において、若いときから地震について知ることが大切です。しかし、小学生などでは、複雑だとか難しいといった意見が多数あります。

そこで大切なのは、どれだけ小学生などの興味を持たせるかということです。「防災学習」といった言葉が最近話題です。小学生などが興味をもつものといえば、映像や実験などです。ある学校において、映像や実験を使った授業をした結果の資料があり、図1、図2のようでした。

僕の意見として、クイズや課外活動はいいんじゃないかと思います。大阪の小学生とかは、阪神淡路大震災についての博物館とか、被災した人とかに話を聞くとかがいいと思います。

そして、クイズなどをやった後、「難しい」と感じる生徒には、



積極的な授業フォローが必要だと思います。

しかし、実際こういったことは小学校だけではかなり難しいので、

地元の大学が積極的に授業協力をすべきであり、継続的な取り組みとして定着させることが大切だと思います。

② 伝えていこう

3.11 東日本大震災において「釜石の奇跡」というのがありました。

釜石小・中学校の生徒達自身で判断をしたことが幸いし、海から近いのに死者0人でした。僕はすごいなあと思いました。

しかし、今後はこれが普通として、やっていかなければいけないと思います。

パニックを起こさないような自制力、皆を引っ張っていく先導力、瞬時に考える判断力といったさまざまな力がためられます。

これらを持つ必要があり、持たせようとするのが、授業であり、避難訓練です。

近年被災をしていない地域としている地域では、防災教育の質が違います。人間は自分が分からないと行動は起こしません。

東海・東南海・南海地震や首都直下型地震など、せまりくる今後の災害に対し、今回の東日本大震災の経験は伝えていかなければいけません。地震などの天災は日本国民全てに関係があります。「自分の所は被災してないからいいんだ」なんて思っている人もいますが、日本の国民が天災の起きた地域からの経験はとても大切にかかっているのではないかと思います。

各都道府県において、各々の情報を公開して、日本国民全員で考えていかなければいけません。

違う地域、次世代へ「伝える」ことがとても重要です。